

自死・自殺の苦悩に向き合う

「京都いのちの日」に超宗派の宗教者が行進

自死問題に取り組む超宗派の僧侶などで行く「京都いのちの日」宗教者実行委員会」は3月1日、京都市内を練り歩く「Life Walk 2018」のちを想う宗教者の行進」を実施、宗教者38人が参加した。本願寺派総合研究所との共催。悩み苦しんでいる人が孤立しないように、自死・自殺の苦悩を抱える人に思いを寄せ、積極的に向き合う宗教者がいることを社会に発信しようと、宗派が支援するNPO法人「京都自死・自殺相談センター Sot to」副代表の霍野廣由さん(30)が中心となって企画した。

死遺族らに向けて書い にアピールした。たメッセージを掲げ、行進に先がけて、両人通りの多い四条通り 足院で3人の宗教者など繁華街を行進(写 によるトークセッション真)。建仁寺塔頭の両 が行われ、自死問題に足院(京都市東山区) ついて語り合った。からカトリック河原町 霍野さんは「宗教者教会(同市中京区)ま は自死の苦悩を抱えたでの3キを歩き、市民 人と直接かかわる可能 た。(8面に関連記事)



「Life Walk」は今年で3回目。月別で自殺者数の最も多い3月を厚生労働省は自殺対策強化月間とし、京都府が3月1日を「京都いのちの日」と一昨年に定めたことに合わせて実施している。

小坂 興道 さん

ライフウォークに
加わった臨済宗僧侶



宗派が支援するNPO法人「京都自死・自殺相談センター Sot to」のボランティア活動に参加する臨済宗の僧侶。超宗派の僧侶が参加した「Life Walk 2018」のトークセッションでは、同センターを代表して発言した。

7年前、友人を自死で亡くした。「友人は商売をしていて婚約者もいて、突然の別れだった。閉店の手続きや遺品整理の手伝いに追われ、誰かと寂しさを分かちあう時間もなかった。全て終わった6カ月後、喪失感に襲われた」

「自分は自死について何も知らない」との思いから同センターのゲートキーパー養成講座を受講し、ボランティアに加わるようになった。「人を孤独にさせてはいけない。そのためにはちゃんと聞ける人がいるかどうか。だから私が聞く人になりたい」。京都市右京区・長慶院住職。42歳。(3面に記事)

性がある。偏った考え方や言葉によって自死遺族をひどく傷つけることがある現実を改善していけるよう啓発活動を行ってみたい。

また自分を責め、苦しみ悩んでいる人に対して慈しみの手を差し伸べる電話相談など、心と心がつながっていくような温かい活動を続けていきたい」と語った。(8面に関連記事)